

令和8年2月24日

戸田市共創のまちづくり補助金事業報告書(SDGs 応援事業補助)

(宛先)

戸田市長

団体名 戸田市福祉で防災ネットワーク

代表者職・氏名 会長 佐藤 太信

所在地

事業名	福祉防災講演会
実施期間	令和7年12月10日 ~ 令和8年2月14日

1 事業の具体的内容及び SDGs の成果

◎事業内容

上戸田地域交流センターあいパルにて毎年実施する、「福祉で防災ネットワーク」事業として講演会を実施した。

講師: 京都教育大学講師 伊藤駿先生
 事業実施日: 令和8年1月31日(日)
 開催場所: 上戸田地域交流センターあいパル ホール
 対象者: 市民
 演題: 「災害時、子どものまわりにおきること」
 ~災害に強い共助の地域づくり~
 講演時間: 10~12時
 周知方法: 各公共施設にチラシ配架、市公式 SNS、福祉で防災特設ページ
 (<https://sites.google.com/view/toda-fukubo/action/active2026>)
 実施体制: 福祉で防災ネットワーク会員7人

講演内容

講演では、東日本大震災における障がい者の被害実態と健常者との被害格差、災害時に脆弱性(ヴァルネラビリティ)を持つ層が直面する困難の個別性について学んだ。さらに、特別支援の観点から備蓄品の準備・障害表示・事前届出など自助・共助・公助による「命を守る」取り組みを紹介し、能登震災での障がい児・者の保護者へのレスパイトケアと「こどもの居場所」づくりが速やかな復旧につながった事例も共有した。

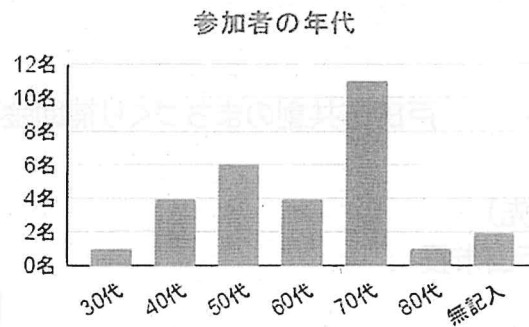
ワークショップ

防災バッグのシミュレーションゲーム「あなたは何を優先する？」を実施した。防災バッグの15 枠に入れる防災用品を備品カードから選び、参加者同士で選択の違いを見比べることで、子育て世帯や発達特性のある家族を含む、ニーズの個別性を体感的に理解した。

◎事業成果

参加者

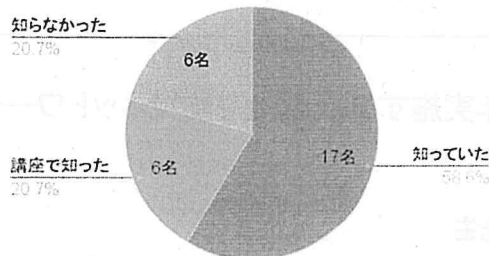
38名(定員50名)が参加し、参加者アンケートには29名からの回答を得た。76.3%の高い回答率となっており、主体的参加の意識の表れと思われる。
行政担当課からの参加もあった。



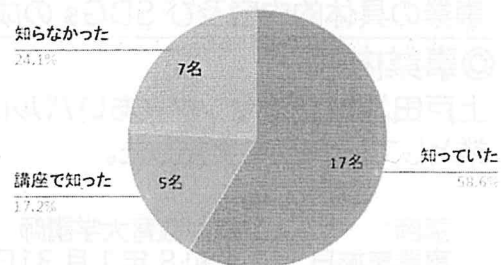
制度の認知

「避難行動要支援者避難支援制度」を講座で初めて知ったと回答した参加者が20.7%(6名)、「福祉避難所」については17.2%(5名)が講座で初めて知ったと回答しており、本講座が制度の周知に一定の役割を果たしたことが確認できた。

避難行動要支援者避難支援制度を知っていたか

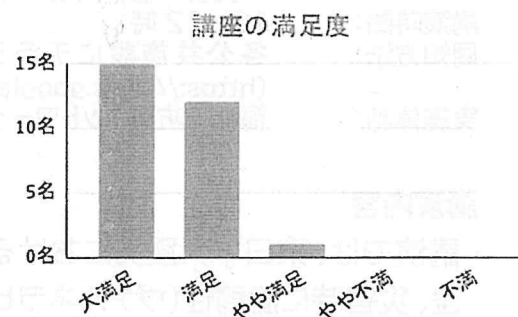


福祉避難所を知っていたか



講座の満足度

については、回答者29名のうち「大満足」15名、「満足」12名、「やや満足」1名(無回答1名)であり、満足以上の評価が96%を占めた。



講座の感想

参加者の声からは、以下の3点において講座の効果が確認できた。

① 多様なニーズへの気づき・理解の深まり

- ・障害児・者の避難所について知ることができた。子どもを持つ親の大変さを知った。
- ・健全者よりも障がい者が圧倒的に不利というのが分かった。日頃の準備の必要性を感じた。
- ・なかなか知らないことばかりで地域の方の悩み事や実際に困ったことを聞けて勉強になった。

② 自助・共助への意識の変化

- ・減災の手引きの大切さ、自助、共助、公助……まずは、個別性があるが命を守ることを優先することが大事。
- ・災害にあった時に、事前準備、家族との話し合い(外出時の連絡の取り方・避難の仕方等)、避難場所の確認などすることができた。
- ・実体験をもとにした話が聞けたため大変参考になった。

③ 避難所運営・制度への課題意識の高まり

- ・福祉避難所の場所の再確認が必要だと思った。
- ・一緒に避難所に入れるのか？プライバシーへの配慮はどうか？精神的にも、気持ちの安定を図っていただけるのか？
- ・色々考えるきっかけとなる講演会だった。
- ・「医療的ケアが必要な重度心身障害児が被災した際、特別支援学校での医療的ケア体制の整備や、緊急時の支援機関間の連絡調整の仕組みづくりなど、地域住民も含めた共助の観点から、より具体的な対応策を知りたい」という声もあり(長文の為要約)。

アンケート結果は市担当課と共有し、今後の避難所運営改善に向けた情報提供として活用いただく予定である。また、参加者が地域町会における「お願い会員・まかせて会員」の運用を見直す契機となること、さらに市が福祉避難所や指定避難所の運営において障害当事者・関係者の意見をより積極的に反映する方向へ進むことを期待する。

本講演会を通じて、多様な市民が共に過ごしやすい避難所運営のあり方について広く周知・啓発を図ることができた。

◎SDGsの成果

住み続けられるまちづくりを

今回の講演会では、防災バッグのシミュレーションワークショップで互いの選択の違いを見比べて、子育て世帯や発達特性のある家族を含む多様な市民が必要とする配慮やニーズの個別性について体験的に学んだ。こうした気づきとともに、避難所運営における障害当事者・要支援者が避難所で過ごせる環境づくりに向け、自助・共助・公助それぞれの観点から、具体的な知識を提供したことで、「SDGs11 住み続けられるまちづくりを」の達成に貢献することができた。今回の参加者が地域町会や日常生活の中で学びを活かし、誰もが住み続けられるまちづくりへの一歩を踏み出すことを期待する。

パートナーシップで目標を達成しよう

今回の講演会では、防災バッグのシミュレーションワークショップを通じて、参加者が互いの選択の違いを見比べることで、地域に暮らす障がい者・要支援者への理解促進につながった。また、今回の講演会で得られた参加者の意見・アンケート結果については、講演に参加された市担当者を通じ行政と共有し、今後の避難所運営改善に向けた協働の基礎資料として活用する予定である。障害当事者・要支援者の家族を含む市民、当団体、自治体が課題を共有し、連携して解決に向けた活動を進めることで、「SDGs17 パートナーシップで目標を達成しよう」を達成することができた。

2 事業実施のスケジュール

月日	内 容
令和7年10月4日	定例会
12月26日	講師との打合せ(オンライン)
令和8年1月10日	定例会
1月31日	アクティブ避難デイ 講演

3 事業の実施体制

ホールの準備や片付け、講師手配、講演受付、SNSによる周知等、会員同士手分けして実施を進めた。

周知と申込みについて、会場の上戸田地域交流センターあいパルとこれまで以上に連携をとり、主に SNS 広報・申込み受付は当団体、行政ルートでの広報・現地受付はあいパルと、それぞれの強みを生かし協力して実施した。

福祉で防災ネットワーク会員からの参加 7 人

4 反省点と課題

- ・聴覚障がい者の方への情報保障として音声の文字起こしを試みた。個別に表示されるタブレット用意したが、台数が足りなかった。次回からは、会場のモニターを使用し、参加者だれでも見られるようにしたい。
- ・時間配分がうまく調整できず、講演終了時間が 12 時を過ぎてしまった。

今回の講座への参加が、さらなる地域づくりの機会へつながるために、関係団体や組織との連携を深める必要がある。

《収支報告書》

【収入】

(円)

科目		予算額 ①	収入額 ②	比較 (②-①)	内訳
補助金・ 助成金	当補助金	50,000	50,000	0	
	その他				
自己資金		10,000	0	▲10,000	
会費(参加費等)					
利用者負担金(売上等)					
協賛金・寄附		0	3,800	3,800	
その他					
合計		60,000	53,800	▲6,200	

【支出】

(円)

	科目	予算額 ①	支出額 ②	不用額 (①-②)	内訳
補助 対象 経 費	謝礼金	40,000	40,000	0	講師への謝礼(交通費込み) 【交通費内訳】 京都駅—戸田公園駅 片道 14,190円 往復 28,380円
	食糧費	7,000	6,582	418	お茶 4,095 お菓子代 1,699 講師弁当 788
	印刷製本 費	3,090	3,910	▲820	属性カード 2,150 チラシ作成 1,760
	小計	50,090	50,492	▲402	※支出額内訳 補助金充当額:50,000 自主財源:0
補助 対象 外 経 費	使用料	8,640	0	8,640	
	備品	1,270	0	1,270	
	小計	9,910	0	9,910	
合計		60,000	50,492	9,508	

